

親 鸞 思 想 の 解 明

日 時： 4月は休講いたします

(会 場) 第111回 5月14日(月) 18:30~20:30 ビジョンセンター東京703

第112回 6月18日(月) 18:30~20:30 ビジョンセンター東京703

※ご参加の予約は不要です。(受付18:00~)

なお、満席の場合には先着順となりますのでご了承ください。(定員：80名)

※会場案内図は裏面をご覧ください。

講 題： 浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—

講 師： 親鸞仏教センター所長 本多弘之

テキスト： 『真宗聖典』〈ご希望の方は、東本願寺出版(下記)までご注文ください。〉

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

●インターネットでの書籍のお求めは、

URL <http://books.higashihonganji.or.jp>

TOMOぶっく

検索

click

聴講料： 無 料

※ 講義(問題提起)後、ご参加の方々との質疑応答の時間を設けております。
お気軽にご参加ください。

講座開設の趣旨

現代文明の溢れる人間社会を^{あふ}生きているものにとって、入手できる情報の範囲はずいぶん広がってはいる。しかし、生まれてから死ぬまで、それぞれの人が与えられる自己の状況に、自分自身が納得し、^{うなず}ここから領けるかというなら、決してそうではない。一般的な条件と、ことさらに自分に起こってくる事件や事実との間には、どう考えても不条理だとしか考えられない落差が出てくるからである。その落差を、^{しゆくごういんねん}仏教的表現では「宿業因縁」と教えるのであるが、この宿業因縁を自己に必然の事実であると引き受けることは容易ではない。

その落差の条件を^{ひ ゆ}比喩的に表現するなら、「^{かなた}届かない彼方」とか「見えざる背景」とか、あるいは「自己に^{ごうほう}負荷されている祖先の業報」というのであろう。これは、^{ふんべつ}理知分別の計数には決して翻訳できない人間の条件なのである。しかもそれが、現実のわれらの生存を厳粛に規定している。この宿業因縁の圧迫から解放しようとする要求が、「浄土を求めさせる要求」の深みにあるのではなかろうか。

本多弘之

主 催：親鸞仏教センター (真宗大谷派)

〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901

E-mail shinran-bc@higashihonganji.or.jp

URL <http://shinran-bc.higashihonganji.or.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/shinran.bc>

親鸞仏教センター

検索

click

浄土は大慈悲から生ずる

天親菩薩の『浄土論』の中に浄土の性^{しょう} 功德というものがあって、「正道大慈悲 出世善根^{ぜんこんしょう} 生」（『真宗聖典』135頁、東本願寺出版、以下『聖典』）と。つまり、浄土の性は大慈悲であって、浄土は大慈悲によって生み出されているのだと。その言葉を曇鸞大師が注釈して、大悲ということは、小悲や中悲ではないのだと言っています。大悲は、如来の慈悲であって、これは無条件の慈悲です。衆生の分限で起こす慈悲は条件付きの慈悲です。ですから、本願の大悲は徹底的にそうした凡夫の有限性を批判して、大悲の場所を開こうと、呼びかけてくる。これはなかなか凡夫にとっては信じがたいし、受け入れがたい。

親鸞聖人は、「一如宝海^{いちにょほうかい}よりかたちをあらわして」（『聖典』543頁）と言っておられますが、この大悲が起こるのは、如が動くという発想なのです。真如平等や、法性平等などと言うのですけれど、法の本来性、存在の本来の在り方は、平等であると。しかし、現実には我々はあらゆるものが違う。自我があって、他とはどうしても一緒になれない、そのような問題を抱えて生きている。それに対して如来は、本当は平等であり、大悲が呼びかけている世界に触れなければならないのだと言うのです。そうでなければたすからないのだと、こう呼びかけてくださる。宗教的要求というのは、こうした大悲が呼びかける世界が欲しいということです。

（『親鸞仏教センター通信』第64号〈第104回「親鸞思想の解明」〉より）



ビジョンセンター東京

●JR 東京駅 八重洲南口 徒歩4分

(地下街 5番出口 徒歩3分)

●東京メトロ銀座線 京橋駅 5番出口 徒歩1分